

# 株主の皆さまへ

平成24年4月1日 → 平成24年9月30日

## 第132期 中間報告書

豊かな明日を支える  
創造的ハイブリッド・ケミストリー

住友化学

証券コード 4005

ごあいさつ

**総力を挙げて業績改善策に取り組むとともに、  
財務基盤の強化を推し進め、  
グローバル経営の深化、  
次世代事業の開発にも注力してまいります。**



株主の皆様には、平素は格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

当社グループの第132期上半期の業績の概況につきまして、ご報告申し上げます。

当期間の当社グループを取り巻く状況は、欧州経済の停滞やそれに伴う新興国経済の成長が鈍化傾向を示す中、国内経済も円高の定着に加え景気の持ち直しにかげりが見られるなど、総じて厳しい事業環境となりました。

当社グループはこのような状況下で、販売価格の是正、販売数量の拡大に努めるとともに、徹底した合理化によるコスト削減に取り組み、全社を挙げて業績改善に努めてまいりましたが、当上半期における売上高は、前年同期に比べ369億円減少し、9,614億円となりました。損益面では、営業利益は245億円、経常利益は189億円、また、純損益につきましては、131億円の損失となり、それぞれ前年同期を下回りました。

当期の中間配当につきましては、1株につき6円として実施させていただくことといたしました。

今後の当社グループを取り巻く状況は、新興国経済の持ち直しは期待されるものの、世界経済全体の回復

にはまだ一定の時間がかかるものと考えられ、また、国内経済も円高等の影響が依然として懸念されるなど、引き続き予断を許さないものと思われまます。

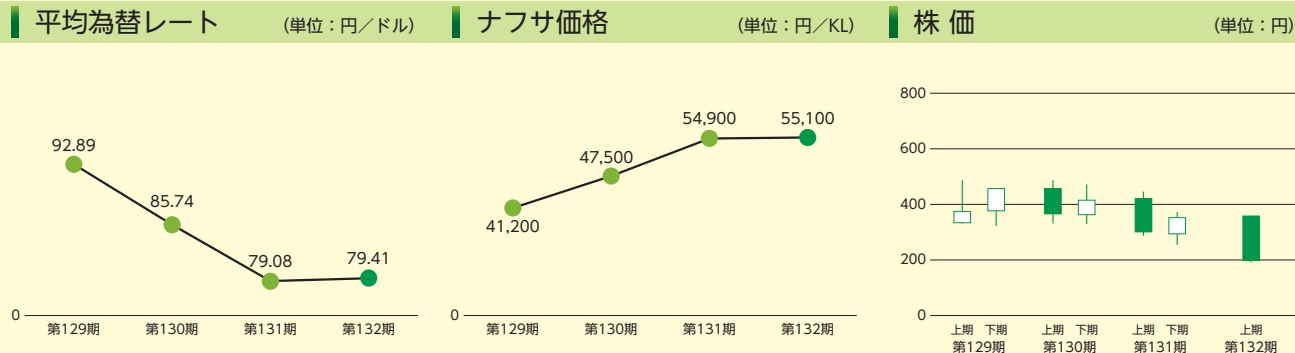
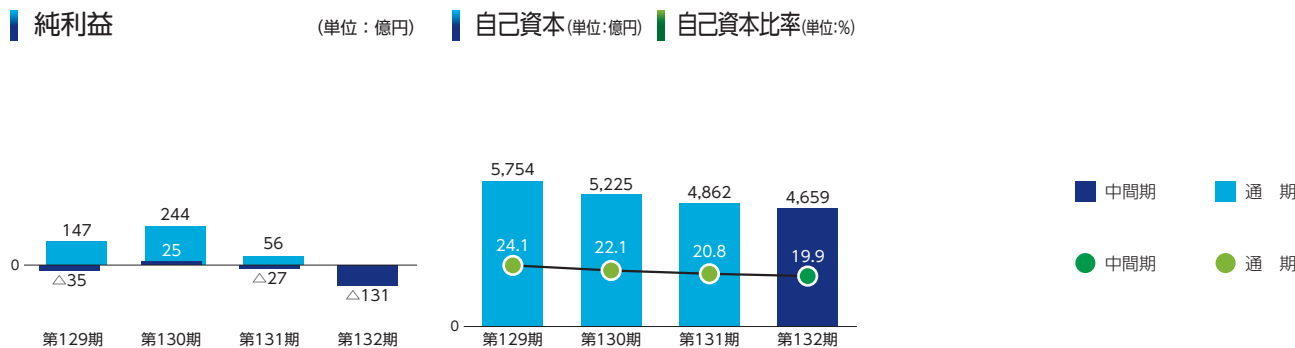
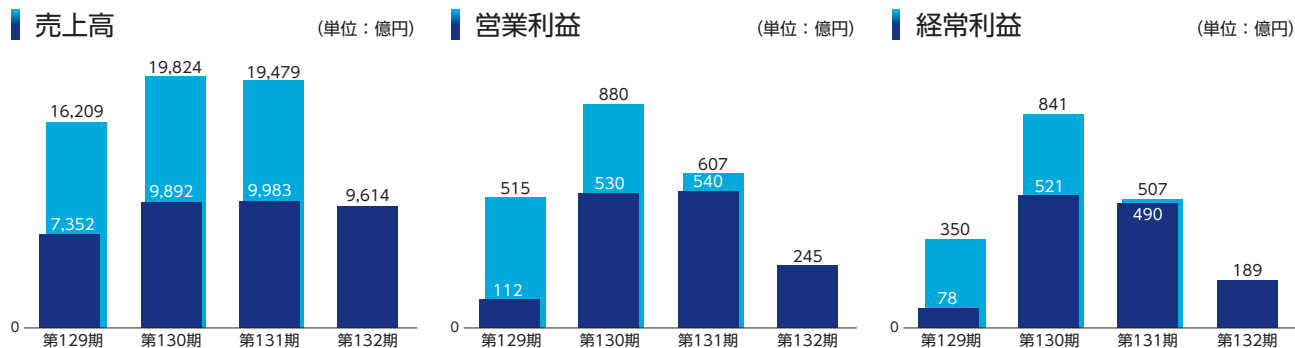
このような厳しい事業環境において、当社グループは、環境変化に的確に対応したマーケティング戦略や徹底したコスト削減の実施など、即効性のある業績改善策に総力を挙げて取り組んでまいります。また、将来の成長につながる事業機会を確実に獲得していくためには、投資を行うための余力をより一層確保し、戦略上の自由度や機動性を高めていく必要があるとの認識のもとで、収益性の改善や投資の厳選、資産効率の向上に取り組むなど、「財務基盤の強化」を推し進めてまいります。

さらに、当社グループを一層発展させるべく、「グローバル経営の深化」や「次世代事業の開発」といった重点課題にも、引き続き注力してまいります。

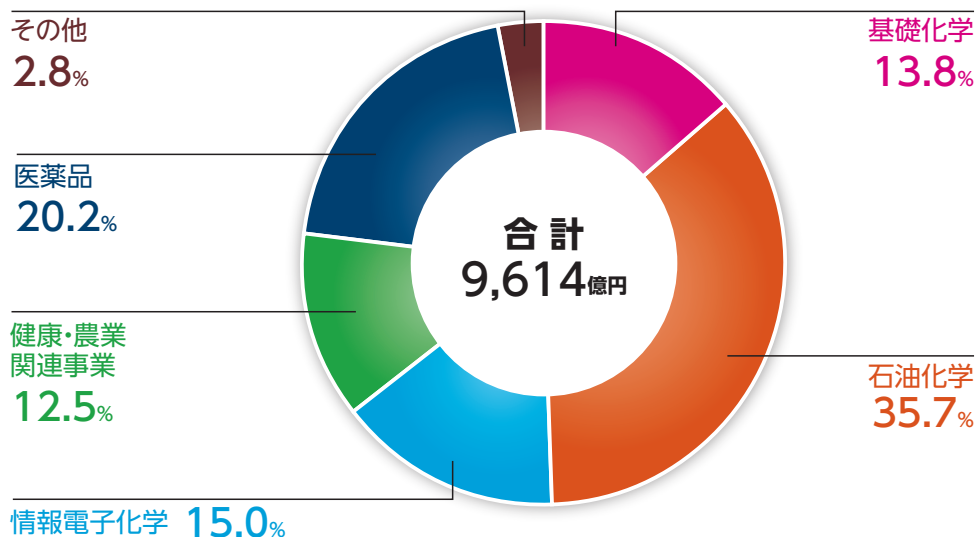
株主の皆様におかれましては、今後とも、よろしくご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成24年12月

社長 十倉 雅和



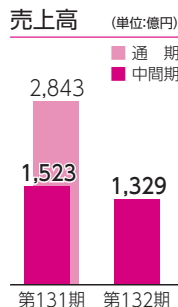
## 売上高構成比



### 基礎化学

無機薬品、合繊原料、有機薬品、メタアクリル、アルミナ製品、アルミニウム、機能性材料、添加剤、染料等

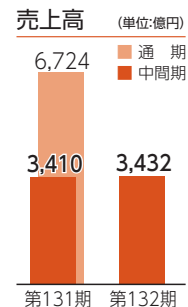
合成繊維原料やメタアクリルは市況の下落に加え、出荷も減少しました。また、アルミニウムは市況の下落により、販売が減少しました。この結果、売上高は前年同期に比べ195億円減少し、**1,329億円**となり、営業損益は前年同期に比べ151億円悪化し**26億円の損失**となりました。



### 石油化学

石油化学品、合成樹脂、合成ゴム、合成樹脂加工製品等

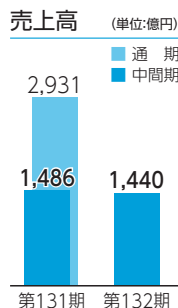
前年にサウジアラビアのペトロ・ラービグ社において定期修繕があり、出荷が低水準であったことから、販売子会社の出荷が増加しました。一方、海外市況の低迷や国内外の需要減少により、シンガポールや国内の石油化学品および合成樹脂の販売は減少しました。この結果、売上高は前年同期に比べ22億円増加し**3,432億円**となりましたが、営業損益は前年同期に比べ80億円悪化し**2億円の損失**となりました。



## 情報電子化学

光学製品、カラーフィルター、半導体プロセス材料、電子材料、化合物半導体材料、電池部材等

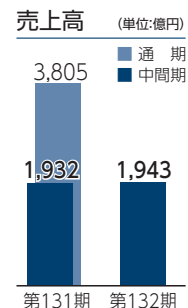
液晶ディスプレイ材料である**偏光フィルム**の出荷は増加しましたが、**カラーフィルター**の出荷は減少しました。また、偏光フィルム、カラーフィルターともに、販売価格が下落しました。この結果、**売上高**は前年同期に比べ45億円減少し**1,440億円**となり、**営業利益**は前年同期に比べ77億円減少し**24億円**となりました。



## 医薬品

医療用医薬品、放射性診断薬等

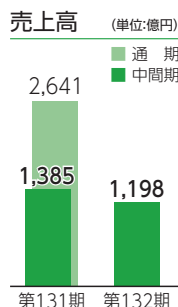
国内では、**アバプロ** (高血圧症治療剤)や**ロナセン** (非定型抗精神病薬)、**トレリーフ** (パーキンソン病治療剤)に加え、**メトグルコ** (血糖降下剤)が大きく伸長しましたが、薬価改定の影響が大きく、販売が減少しました。一方、北米では独占期間の満了を迎えた**ゾペネックス** (短時間作用型β作動薬)の出荷は減少しましたが、**ラツォグ** (非定型抗精神病薬)や**ルネスタ** (催眠鎮静剤)の出荷が順調に推移したうえ、導出にかかるマイルストーン収入等があったため、販売が増加しました。この結果、**売上高**は前年同期に比べ11億円増加し**1,943億円**となり、**営業利益**は前年同期に比べ77億円増加し**231億円**となりました。



## 健康・農業関連事業

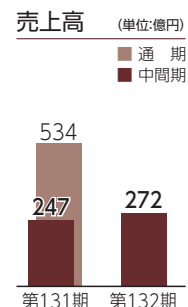
農業、肥料、農業資材、家庭用・防疫用殺虫剤、熱帯感染症対策資材、飼料添加物、医薬化学品等

**農業**は海外での除草剤の出荷が引き続き堅調に推移しましたが、海外子会社の決算期変更による季節差の影響により、販売が減少しました。**オリセットネット** (長期残効性防虫蚊帳)や**医薬化学品**は需要の減少により出荷が減少しました。また、**メチオニン** (飼料添加物)は市況が軟化しました。この結果、**売上高**は前年同期に比べ187億円減少し**1,198億円**となり、**営業利益**は前年同期に比べ71億円減少し**77億円**となりました。



## その他

その他、電力・蒸気の供給、化学産業設備の設計・工事監督、運送・倉庫業務、物性分析・環境分析等を行っております。これらの**売上高**は前年同期に比べ26億円増加し**272億円**となり、**営業利益**は前年同期に比べ7億円増加し**42億円**となりました。



## 高純度アルミナ増強設備の完成

当社は、高純度アルミナ製造設備の生産能力を年産1,600トンから3,200トンに倍増するための設備増強を愛媛工場において進めておりましたが、本年第2四半期にその新設備が完成いたしました。

当社の高純度アルミナは純度99.99%以上のアルミナで、これまで長きにわたり、各種電子部材、自動車部材などに広く用いられてきましたが、特に近年は、LED用サファイア基板向け単結晶やリチウムイオン二次電池関連部材の原料としての需要が増加しています。

今後も、顧客のさまざまなニーズに迅速に対応するため、生産体制のみならず、研究開発も強化し、高純度アルミナ事業のさらなる拡大・強化を図ってまいります。



愛媛工場に増設した  
高純度アルミナ製造プラント

## シンガポールにてSolution-SBRプラントの起工式を開催

当社は、本年2月、シンガポールにて溶液重合法スチレンブタジエンゴム (Solution-SBR、以下、S-SBR) のプラント起工式を開催いたしました。このS-SBRプラントは主に省燃費タイヤ用途向けに年産4万トンのS-SBRを製造し、商業運転開始時期は2013年第4四半期を予定しております。

起工式はプラント建設予定地であるジュロン島メルバウ地区の新規埋立地にて行われ、シンガポール政府経済開発庁の副ディレクター Eugene Leong氏、ジュロンタウン公社のディレクター Heah Soon Poh氏をはじめとする来賓の方々に御出席いただき、盛大に執り行われました。

省燃費タイヤの市場は年々急拡大を続けており、それに伴って省燃費タイヤに使用されるS-SBRの需要も増加しております。今後も国内に保有するプラントと併せて、増大する需要に対応するためのグローバルな事業展開を進めてまいります。



本年2月に開催された起工式の様子

## タッチセンサーパネル製造設備の稼動開始

当社は、次世代タイプのタッチセンサーパネル製造設備を、当社韓国拠点である東友ファインケムで完成させ、本年5月から稼動を開始いたしました。

タッチセンサーパネルは、急成長しているスマートフォンやタブレットPCなどの表示性能を左右する重要な部材であり、今後は電子黒板、教育用スレート端末、ナビゲーション表示材などのさまざまな用途への採用が予想されています。今回のタッチセンサーパネルは、映像の美しさや操作の簡便性、省エネ性能、軽さなどの特長が市場で高い評価を受けている有機ELパネルを対象とした次世代タイプです。

また、当社は、高分子有機EL材料の開発にも注力しており、将来的には大型の有機EL表示材料向けタッチセンサーパネルの展開も視野に入れて本事業の拡大を目指してまいります。



韓国のタッチセンサーパネル製造プラント

## 除草剤フルミオキサジン製造設備を増強

当社は、除草剤フルミオキサジン (Flumioxazin) の需要増加に対応するため、大分工場において、新たな製造設備を増設いたしました。

フルミオキサジンは、大豆、棉、サトウキビ等の栽培に使用される除草剤です。現在、世界的に使用されている除草剤グリホサートに抵抗性を有する雑草に対しても有効な除草剤で、当社と米国大手化学メーカーとの提携ならびに中南米における中長期的な需要の増加により、今後も大幅な販売拡大が見込まれております。

今後も重点分野のひとつであるライフサイエンスの強化を図り、農業をはじめとする農業関連資材を通じ、農作物の生産性向上に貢献してまいります。



大分工場のフルミオキサジン製造プラント

## 大日本住友製薬 米国で「ZETONNA™」を販売開始

当社グループの大日本住友製薬株式会社は、本年7月、米国子会社であるサノビオン社を通じて、アレルギー性鼻炎治療剤「ZETONNA™」(ゼトナ、一般名:「シクレソニド」)を米国で発売いたしました。ゼトナは、米国で初めての鼻腔用ドライスプレー剤です。

また、サノビオン社は、シクレソニド製剤として、アレルギー性鼻炎の治療剤である「オムナリス」、および喘息治療剤「アルバスコ」を米国で販売しております。さらにCOPD (慢性閉塞性肺疾患)治療剤においては、販売中の「プロバナ」に加え、新規の治療剤を開発中の米国エレベーション社(現サノビオン・レスピラトリー・ディベロップメント・インク)を本年9月に買収するなど、主力疾患領域である精神神経領域に加え、呼吸器領域においても幅広い治療薬を開発・提供しています。



アレルギー性鼻炎治療剤「ZETONNA™」

## CSR活動

### 東日本大震災 被災地の復興に向けて

当社は、東日本大震災の発生以降、社員ボランティアの派遣のほか、社員食堂における被災地の食材使用や義援金付きメニューの提供、被災地応援物産展の開催など、さまざまな支援活動を実施しています。

本年7~8月には、社員ボランティアを派遣し、被災地の小学生を対象に、当社製品を活用した「夏休み理科実験教室」の開催、ならびに「岩手県大槌町役場の新庁舎移転作業の支援」を行いました。

震災から1年半以上が経過し、被災地が求める支援内容は多様化しています。当社は今後もそれらのニーズに応えながら、被災地の一日も早い復興に向け、支援活動を継続していきます。



「世界に一つだけのハンカチ」  
「ふしぎなスタンドグラス」作成の様子



要約連結貸借対照表

(単位:億円)

科目	当中間期 (平成24年9月30日現在)	前期 (平成24年3月31日現在)	科目	当中間期 (平成24年9月30日現在)	前期 (平成24年3月31日現在)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>10,753</b>	<b>11,021</b>	支払手形及び買掛金	2,245	2,278
現金及び預金	871	686	有利子負債	10,874	10,530
受取手形及び売掛金	3,755	4,109	その他	3,303	3,353
たな卸資産	3,952	3,824	<b>負債合計</b>	<b>16,422</b>	<b>16,161</b>
その他	2,175	2,402	<b>純資産の部</b>		
<b>固定資産</b>	<b>12,663</b>	<b>12,349</b>	株主資本	5,723	5,897
有形固定資産	6,151	5,949	その他の包括利益累計額	△1,064	△1,034
無形固定資産	1,752	1,422	少数株主持分	2,335	2,347
投資その他の資産	4,759	4,978	<b>純資産合計</b>	<b>6,994</b>	<b>7,209</b>
<b>資産合計</b>	<b>23,416</b>	<b>23,370</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>23,416</b>	<b>23,370</b>

要約連結損益計算書

(単位:億円)

科目	当中間期 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	前年中間期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)
<b>売上高</b>	<b>9,614</b>	<b>9,983</b>
<b>営業利益</b>	<b>245</b>	<b>540</b>
持分法投資損益	14	10
為替差損益	△37	△38
その他	△32	△22
<b>経常利益</b>	<b>189</b>	<b>490</b>
投資有価証券評価損	△27	—
事業構造改善費用	△22	△10
持分法投資損失(※)	—	△289
その他	△4	15
<b>税金等調整前中間純利益</b>	<b>136</b>	<b>206</b>
法人税等	188	139
<b>少数株主損益調整前中間純損益(△は損失)</b>	<b>△52</b>	<b>67</b>
少数株主利益	79	94
<b>中間純損失</b>	<b>△131</b>	<b>△27</b>

(※)関係会社のれん相当額一時償却

要約連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

科目	当中間期 (平成24年4月1日から 平成24年9月30日まで)	前年中間期 (平成23年4月1日から 平成23年9月30日まで)
<b>営業キャッシュ・フロー</b>	<b>618</b>	<b>572</b>
<b>投資キャッシュ・フロー</b>	<b>△1,048</b>	<b>△601</b>
<b>差引(フリー・キャッシュ・フロー)</b>	<b>△430</b>	<b>△30</b>
<b>財務キャッシュ・フロー</b>	<b>261</b>	<b>△26</b>
<b>その他</b>	<b>4</b>	<b>4</b>
<b>現金及び現金同等物の増減</b>	<b>△164</b>	<b>△52</b>



特集1 「ラービグ第2期計画」について ～海外での石油化学事業のさらなる拡大～

当社は、本年5月に「ラービグ第2期計画」を確定するために必要な作業を進めていくことを決定し、エンジニアリング・調達・建設等に関する諸契約の締結や、プロジェクト・ファイナンス（事業から発生する収益を評価し、行われる融資）の確保等の作業を進めています。



「ラービグ第2期計画」は、サウジアラビアのラービグにおいて、当社とサウジアラビア国営石油会社「サウジ・アラムコ社」が共同で設立した「ペトロ・ラービグ社」が運営している石油精製・石油化学の統合コンプレックス（「ラービグ第1期」）を発展させるプロジェクトです。

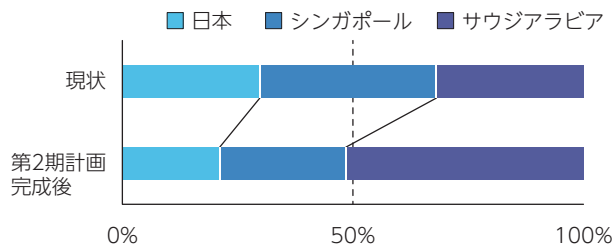
この「第2期計画」への投資により、統合コンプレックスで生産する石油化学製品の品目が7品目から18品目（検討中の製品を含めると23品目）に拡大しますが、「第2期計画」は、安価なエタンを原料の一部とすることに加え、第1期計画で投資したインフラを活用できることなどから、高いコスト競争力を有しています。

当社は、これまで、シンガポールや「ラービグ第1期」での大規模なプロジェクトに投資を行い、海外での事業を拡大してきましたが、この「第2期計画」への投資を行うことで、海外での石油化学事業のさらなる拡大を図ってまいります。

「第2期計画」の概要

主原料：エタン、ナフサ  
 製品：EPDM、TPO、MMA、PMMA、LDPE/EVA、パラキシレン/ベンゼン、キュメン、フェノール/アセトン  
 ※アクリル酸、SAP、カプロラクタム、ナイロン6、ポリオールについては、第三者との協業も含めて、引き続き最適な実施の形態について検討。  
 プロジェクトの総投資額：約70億ドル  
 稼動時期：2016年前半からの順次稼動を想定

■ 拠点別の石油化学製品の生産比率



特集2 「豊かな明日」を支える住友化学の製品と技術

クルマに、もっとエコ&省エネを。

環境性能の向上や次世代エコカーの開発を追求する、住友化学のテクノロジー。

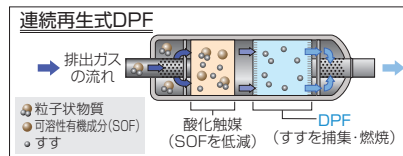
ハイブリッド車や電気自動車の発展・普及には高性能電池の開発が不可欠です。当社の技術は、自動車用リチウムイオン二次電池の高性能化にも貢献。従来のセパレータに比べ優れた耐熱性を確保できる**耐熱セパレータ**（「ペルヴィオ®」）、希少金属のコバルトを使用しない高性能な**正極材**（「エナヴィオ®」）等は、各方面から評価を得ています。



リチウムイオン二次電池用耐熱セパレータ



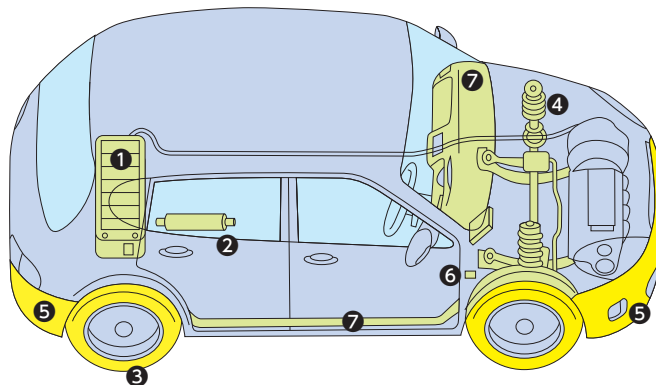
すす除去フィルター (DPF)



また、当社はCO<sub>2</sub>排出量低減や燃費の観点から注目を集めるクリーンディーゼル車用**すす除去フィルター (DPF)**の本格量産にも取り組んでおります。

“走る、停まる、曲がる”というクルマの基本性能に重要な役割を果たすタイヤ。当社の**合成ゴム**（「住友® SBR」）は、低いこがり摩擦と高いグリップ性を両立させ、エコタイヤの性能を向上させています。

このほか、当社では、軽量で、しかも強度が高い金属や樹脂の開発を進め、クルマのパーツの軽量化にも貢献しています。



- ① リチウムイオン二次電池用部材  
（耐熱セパレータ／正極材／電極用バインダー）
- ② ディーゼル車用すす除去フィルター (DPF)
- ③ 高性能エコタイヤ用合成ゴム（「住友® SBR」）
- ④ サスペンション（高純度アルミニウム）
- ⑤ 外装部材など金属部品（有機長繊維ポリプロピレン）
- ⑥ リレー（スーパーエンジニアリングプラスチック）
- ⑦ 内装部材（ポリ乳酸エコプラスチック）

会社概要

設立	大正14年6月1日
資本金	89,699百万円
従業員数	30,416名(単体 6,353名)
関係会社数	連結子会社 148社 持分法適用会社 35社

役員

取締役および監査役	執行役員
代表取締役会長 米倉 弘昌	常務執行役員 岡本 敬彦
代表取締役副会長 石飛 修	常務執行役員 野崎 邦夫
代表取締役社長 十倉 雅和	常務執行役員 下田 尚志
代表取締役副社長執行役員 高尾 剛正	常務執行役員 米田 重幸
代表取締役専務執行役員 福林憲二郎	常務執行役員 森本 雅貴
代表取締役専務執行役員 羽多野憲一	常務執行役員 上田 博
代表取締役専務執行役員 出口 敏久	常務執行役員 西本 麗
取締役常務執行役員 大野 友久	常務執行役員 小川 育三
社外取締役 伊藤 邦雄	執行役員 小中 力
	執行役員 清水 祥之
	執行役員 新沼 宏
	執行役員 岩田 圭一
	執行役員 松浦 秀昭
	執行役員 佐藤 良
	執行役員 児島 俊郎
	執行役員 丹 一志
監査役(常勤) 赤坂 貴夫	執行役員 高沢 聡
監査役(常勤) 長松 謙哉	執行役員 丸山 修
社外監査役 荒川 洋二	執行役員 竹下 憲昭
社外監査役 横山 進一	執行役員 マーク フェルメル
社外監査役 池田 弘一	執行役員 松尾 忠毅
	執行役員 金 尚允
	執行役員 マイケル ドナルドソン
	執行役員 重森 隆志

海外の主要拠点



アジア・オセアニア	韓国、中国、台湾、ベトナム、タイ、シンガポール、マレーシア、インド、オーストラリア、ニュージーランド
北米・中南米	米国、メキシコ、ブラジル
欧州・アフリカ・中東	英国、ベルギー、フランス、スペイン、イタリア、ポーランド、タンザニア、南アフリカ、サウジアラビア

国内の主要拠点

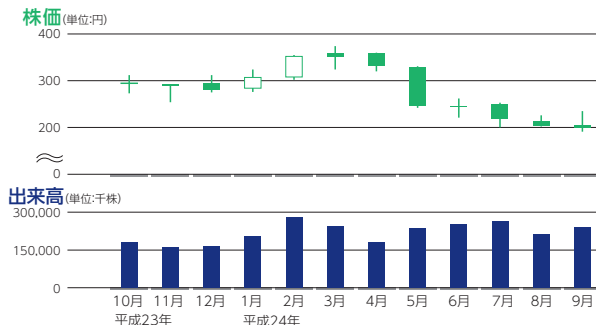


本社	東京、大阪
営業所	東京、愛知、大阪、福岡
工場	青森、千葉、岐阜、大阪、岡山、愛媛、大分
研究所	茨城、千葉、大阪、兵庫、愛媛

株式の状況

発行可能株式総数	5,000,000千株
発行済株式総数	1,655,446千株
株主数	126,384名

株価・出来高の推移



## 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 (1) 定時株主総会・期末配当金 毎年3月31日

(2) 中間配当金 毎年9月30日

その他必要あるときは、あらかじめ公告して基準日を定めます。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
特別口座の口座管理機関 三井住友信託銀行株式会社

同上事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) 東京都府中市日鋼町1番10 (〒183-8701)  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(電話照会先)  0120-176-417

<平成25年1月より郵便物送付先・電話照会先が変更となります。>

東京都杉並区和泉二丁目8番4号 (〒168-0063)  
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

 0120-782-031

(URL) <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告方法 電子公告により行います。  
(下記の当社ホームページに掲載いたします。)  
<http://www.sumitomo-chem.co.jp/koukoku/>  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。

### ■ 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会につきましては、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、左記の電話照会先にご連絡ください。

### ■ 特別口座について

株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていなかった株主様には、株主名簿管理人である左記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしました。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、左記の電話照会先をお願いいたします。

### ■ 単元未満株式の買取増制度について

単元未満株式(1,000株未満の株式)を、当社と売買いただく制度(単元未満株式買取および買増請求の制度)がございます。売買をご希望される場合は、お近くの三井住友信託銀行株式会社の本・支店にご連絡ください。

### ■ 配当金のお支払期限について

配当金は、支払開始の日から満3年を経過しますと、定款の規定によりお支払いできなくなりますので、お早めにお受け取りください。

## 住友化学株式会社

〒104-8260 東京都中央区新川二丁目27番1号  
東京住友ツインビル(東館)  
TEL:03-5543-5101 FAX:03-5543-5902  
<http://www.sumitomo-chem.co.jp/>

UD  
FONT

見やすく読みまちがえにくいユニバーサル  
デザインフォントを採用しています。



この報告書は、FSC®認証紙と、環境に優しい植物油インキを使用し  
て印刷しています。